

美祢市秋芳町でできる「秋芳梨」は、一八九八年に千葉県で発見された品種の二十世紀梨を、一九〇四年に秋芳町に苗木が導入されたことから始まった。この「秋芳梨」づくりを、子どもたちに体験させるため、別府小学校で「梨下村塾」を指導されている永嶺克博さんにお話を伺った。

＊「梨下村塾」を始められたきっかけを教えてください。

梨下村塾は、美祢市秋芳町の別府小学校で実施されている梨栽培の体験学習を称したもので、子どもたちが命名したものです。

美祢市秋芳町では、特産として梨の栽培が行われています。栽培の歴史は古く、明治三十七年（一九〇四年）に別府地区の西村正一氏が五本の二十世紀梨の苗木を取り寄せたことに始まります。今年で百一十一年生の樹は、現在日本で栽培されている二十世紀梨の中では最古木となりました。鳥取県に一本、同年の樹が現存しているのみです。

現在の産地状況は三十六戸の農家が秋吉台山麓のカルスト地形を利用して三十畝の面積で五百五十トを生産しており山口県では最大の産地です。最盛期には六十畝で千五百トを生産していましたが、高齢化と後継者不足で産地規模は縮小しています。しかし産地の評価は以前より高まっており、平成元年からは東京の果物専門店「新宿高野」で販売が始まり「秋芳梨」そして日本最古木をイメージした「長寿梨」の二つのブランドで高い人気を得ています。

別府小学校の梨づくり体験学習は、この地元の特産を子どもたちにより深く知ってもらうために平成元年に始めました。きっかけは私の次女が小学校五年生の時、担任の先生から総合的な学習の時間に、梨づくり体験が実現できないだろうかかと相談を受け、私も当時梨組合の技術指導員だったことから他に例のなかった梨づくり作業体験の指導に挑戦することとなりました。

この人 この歩み 「梨下村塾」を通して

秋芳梨生産販売協同組合
組合長 永 嶺 克 博 さん



探訪シリーズ

ることが不可欠と考え、高学年でできる作業はすべて学習に取り入れ達成感を得ることを目標にしました。

作業内容は、十二月の土作り（施肥・土壌改良）から始まり、四月の花粉付け、五月の摘果・小袋掛け、七月の敷き藁（乾燥防止）、九月中旬の収穫と七回の作業を行います。当時私は梨づくりを教えることに強

い意気込みで臨んでいましたが、二時間の作業に子どもたちの集中力は維持できません。そこで、すべてを教えることから子どもたちの疑問を梨園での作業を通して理解させ、自分たちで学ぶことに興味を持ってもらうこととしました。それから、質問が多くなり、何度か私にも宿題が出て、専門機関に問い合わせ答えたこともありました。

「梨下村塾」は今年で二十七年目の取組ですが、嬉しい成果もあります。五名の梨下村塾卒業生が梨生産者として就農したことです。今後産地の柱として育ってくれることでしょう。

また、平成二十五年からは被災地の気仙沼中学校へ、つくった梨を送り始めました。昨年は、梨の販売体験など新たな取組も始まりました。

今後もできる限り子どもたちの思い出づくりのお手伝いをしたいと思っています。



「梨下村塾」は、今年で二十七年目を迎えている。収穫した梨は、地域でお世話になっている方や東日本の気仙沼中学校へ送っている。また、昨年度より販売も行っている。子どもたちには「ふるさとを愛する気持ち」が育っている。

（別府小 亀谷秀雄）

本部だより

平成二十七年年度、新会員六十四名を迎え、計三〇二名からなる小学校長会の総会が、去る五月八日に開催された。役員改選が行われ、新役員の説明による活動方針及び事業計画、予算、各専門部の提案等が承認され、本年度の諸事業がスタートした。

本年度は、十月に第六十七回全国連合小学校長研究協議会山口大会を控えており、山口県小学校長会の組織をあげての取組が問われることとなる。大会主題「新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く、日本人の育成を目指す小学校教育の創造」に基づき、「志を高くもち未来へ向かって共にたくましく生きる子どもを育てる学校経営の推進」を副主題として、全国約二六〇〇名の校長先生方と五つの研究領域十三の分科会において研究を深めていくこととなる。大会実行委員会を中心に、これから本格的に準備が進むこととなるが、教育県山口らしいおもてなしの心が通じるような大会にしたいと考えているので、各支部及び会員一人ひとりの積極的な協力をお願いしたい。

そのためには、本県における小学校教育の質を一層向上させ、各分科会において、協議をリードし、その成果を教育実践に直結する内容として発信することができるよう、各支部ごとに研究を深め、全会員が十分な力量を備えておく必要がある。